【臨床化学】投稿規定

1. 【臨床化学】は，日本臨床化学会の学術機関誌であり，臨床化学に関する論文を掲載する．
2. 投稿者（筆頭著者または連絡先指定著者）は日本臨床化学会会員に限る．
3. 【臨床化学】に掲載された記事の著作権は日本臨床化学会に帰属し，記事のすべてまたは一部を転載する場合は，本会の許可を必要とする．著作権は，電子メディア化する権利，複製権，二次的著作物の利用権（インターネットでの公開等）を含む．
4. 研究倫理

（1）症例報告など患者情報の記載のある論文については，患者のプライバシー保護に十分配慮し，患者が特定されないよう留意しなければならず，原則としてインフォームドコンセント（IC）を得た上で投稿する．ICの対応が困難な場合は，投稿者の施設等における倫理委員会の承認を受けている場合はICを得なくても投稿できる．

（2）投稿者および共著者は，ヒトを対象とした研究について世界医師会総会で採択されたヘルシンキ宣言（1964年制定，2013年10月改正）を遵守し，以下の指針・法令に則したものでなければならない．

1）人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和5年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号［令和5年3月27日一部改正］）

2）症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針（外科関連学会協議会・平成16年4月6日，平成21年12月2日一部改正，平成27年8月28日一部改正）

3）臨床研究法(平成30年4月1日施行)

4）日本臨床検査医学会の指針

（3）動物を扱った研究は，実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成25年環境省告示第84号）に基づいた各施設のガイドラインに則して行われたものでなければならない．

（4）論文の投稿者は，投稿に際して論文にその旨を記載し，必要な場合には実施機関の倫理委員会等の承認を得ていることを記載する．ただし，自施設内に倫理審査委員会が設置されていない場合は，設置されている他施設に審査を依頼し，承認を得る．

以上，この宣言における事実誤認または虚偽や過失により掲載された論文に対する訴えがあった場合，本会および編集委員会は一切の責めを負わない．

5. COI報告書

COIの有無に関し，開示が必要となるため，投稿の際，著者全員の「自己申告によるCOI報告書（別紙様式）」を提出する．なお，著者が開示する義務のあるCOI状態は，投稿内容に関連する企業や団体に関わるものとする．開示内容は「自己申告によるCOI報告書」に基づき，掲載論文の末尾に編集部が記載し公表する．記載方法は下記のとおり．

利益相反開示事項なし：「本論文内容に関連する著者の利益相反：なし」
利益相反開示事項あり：「利益相反：該当著者名（該当項目：企業名）」

6. 二重投稿

本投稿論文の内容が，すでに他誌に掲載済み，あるいは掲載予定（投稿中も含む）の場合は二重投稿とみなされる．

7. 論文の書式

（1）使用する言語は日本語とする．

（2）原稿は，楷書で現代かなづかいとし，専門用語以外は常用漢字を用いる．

（3）外国の固有名詞（地名，社名，人名など）には原語を用い，その綴りを明瞭に記載する．

8. 論文の種類

（1）原著論文

臨床化学分野の基礎および応用に関する研究でオリジナリティーに富み，未発表のものに限る．

（2）技術論文

臨床化学分野における技術・機器・試薬の改良，考案など，日常検査にすぐ役立つ新知見を記述するもの．

（3）短報

断片的な研究であるが，新しい事実や広く利用価値のあるデータを含むもの．

(4) 速報

重要な新知見で，特に早い掲載を必要とする場合は，速報として投稿できる．

(5) 症例報告

学術的に貴重な症例について報告するもの．

(6) 編集者への手紙

本誌に掲載された論文・記事に関する感想，反論，異論や，臨床化学および臨床化学会の活動に関する意見などを含む．

(7) オピニオン

臨床化学，科学全般，研究，教育，科学政策，科学に関連する社会的問題などに関する主張，仮説，随想などを含む．原則的に編集委員会からの依頼によるが，投稿も受けつける．

9. 論文の審査

(1) 編集部に届いた原著論文，技術論文，短報，速報および症例報告（以下，「論文」という）は、査読に付される前に、編集委員長および副委員長が内容を確認し、投稿規定に沿っているかを審査する。

確認事項は、以下を含むものとする。

①倫理審査の承認および研究登録の有無

②二重投稿または重複投稿の可能性

③論文の書式および投稿規定への適合性

④論文の種類と目的・内容の適合性（例：原著論文としての独創性）

⑤最低限の科学的妥当性

⑥明らかな方法論上の重大な欠陥またはデータの著しい不足

投稿規定に沿っていると判断された場合には査読に付す。沿っていないと判断された場合には、査読に付さず不受理とすることがある。

(2) 編集者への手紙・オピニオンの採択については編集委員会が決定する．

(3) 編集部に届いた論文は，編集委員会が指名した2名以上の査読者によって査読される。査読意見を踏まえ，編集委員長が論文の採否を判断する。なお，査読意見が分かれるなど採否に関して疑義がある場合には委員長が決定する。その際，必要に応じて追加の査読者を指名し，その意見を参考に最終判断を行うことができる。

(4) 編集委員は，査読意見を整理した上で，論文の内容，構成または表現について，著者に訂正または疑義の解明を求めることがある。

(5) 本誌における査読期間の目安は，初回査読については査読開始後3週間，再査読については2週間とする。ただし，査読者の事情その他やむを得ない理由により，査読期間が延長される場合がある。

(6) 前各項に基づく修正原稿の返送は、原則として6週間以内に行うものとする。特別の理由なく6週間以上を要した場合には、返送された原稿の受取日をもって新たな受理日とする。さらに、原稿の内容が著しく変更されている場合には、新規投稿論文として扱い、改めて採否の審査を行う。

(7) 著者は，査読方法，査読手続きまたは査読体制に関して意見がある場合には，編集部が指定する方法により，学術的根拠に基づく理由を明記した意見書を，編集委員会に提出することができる。

(8) 前項の意見書を受理した場合，編集委員会は当該内容を審議し，必要に応じて査読方法の見直し，査読者の変更を含む対応を行うことがある。編集委員会による判断は最終的なものとする。

10. 原稿の長さ

原則として下記の長さを限度とする．

論文の種類	本文，文献など	図表（400字換算/1点）
原著	4,800字	2,000字（図表5点程度）
技術	3,200字	1,200字（図表3点程度）
短報・速報	2,000字	左に含む
症例報告	3,200字	1,200字（図表3点程度）
編集者への手紙	800字	左に含む
オピニオン	1,600字	左に含む

11. 論文の構成

11.1. 原稿の内容

原稿は①表紙，②本文，③引用文献リスト，④表，⑤図，⑥図の説明，⑦英文表記事項をもって構成する．

11.2. 表紙

表紙には①論文の種類，②論文表題，③著者名，④研究の行われた機関とその所在地，⑤キーワード，⑥原稿枚数と表および図の枚数，⑦連絡先，⑧別刷請求先，をこの順に記載すること．

(1) 論文表題

漠然としたものや大きすぎる概念のものは避け，論文内容を適切に示すものとすること．化学式や略号を用いてはならない．

(2) 著者名

全員のフルネームを記載すること．

(3) 研究機関名

研究が行われた機関名を正式な名称で明記すること．複数の研究機関による共同研究の場合は，著者と所属機関の関係をアステリスク「*」などで明示すること．

(4) キーワード

表題中の語句以外で内容を把握できる重要な語を5〜6個抽出し，それぞれをカンマ（，）で区切り，続けて記載すること．

11.3. 本文

原著論文は原則として，①要約，②緒言，③材料と方法，④結果，⑤考察，⑥謝辞の各項で構成し，この順に配列する．本文の冒頭に表題を重複させないこと．

①要約

著者が特に強調したい結論を含め，方法や結果を総括するもので，専門外の読者にも理解できるものでなければならない．長さは400字程度を原則とする．特殊な単語や略語の使用および本文中の図や表の引用は避けること．

②緒言

研究の目的および研究の背景を簡潔に記し，その研究の意義や重要性をわかりやすく記述すること．

③材料と方法

実験試料，試薬，機器，方法などについて，その記述と引用文献の参照により，実験を追試できるよう留意すること．特に重要なものについては単に文献引用にとどめず，原理を簡単に記述すること．測定法などを改良した場合は，その改良点を明確に記述すること．

④結果

結果（事実）のみを客観的に記述すること．結果の説明と解釈を混同してはならない．簡単な結果は本文中で言及するにとどめ，図表は複雑で重要なものに限ること．また，同一データを図と表の両方で示すことは避けること．

⑤考察

結果が得られた過程，結果の解釈・評価，他報との比較，今後の課題などを簡潔に論ずること．結果で述べた事項の反復は避けること．

⑥謝辞

研究費・試料・試薬などの提供を受けた個人・機関などに対し感謝の意を表する旨を記述すること．

11.4. 引用文献リスト

引用文献には，本文中の引用順に番号をつけること．

(1) 雑誌に掲載された論文を引用する場合

①文献番号，②著者名（共著者が6名以下の場合は全員の名前を列記し，「他」「et al.」を使わない），③論文表題，④雑誌名，⑤巻数，⑥引用ページ（最初と最後），⑦発行年号（西暦）の順に記載する．

(2) 雑誌名の略記

連続して同一雑誌を引用する場合は，2回目以降の雑誌名を省略し「ibid」「同」を使用してもよい．また，欧文雑誌の引用の場合，誌名は国際的慣用にしたがって略記することができる（Index Medicusのリスト参照）．

(3) 掲載決定の通知を受けた投稿論文を引用するときは，雑誌名のあとに「（in press）」または「印刷中」と書く．投稿中の論文は，引用リストに加えず，本文中に「（著者名，投稿中）」の形で記述する．

(4) 単行本を引用する場合

①文献番号，②著者名，③書名（省略しない），④巻数（もしあれば），⑤引用ページ（最初と最後）または全ページ数，⑥発行所，⑦発行都市名，⑧発行年号（西暦）の順に記載する．

(5) 複数論文を編集した単行本の中の1論文を引用する場合は，原論文表題の後に「in 書名」を記入し，次に「ed（s）．編者名」を記載する．

(6) 翻訳書を引用する場合

①文献番号，②訳者名（後に「訳」を付ける），③訳本名（原著者名を記載し「著」の文字を入れる），④引用ページ，⑤訳本発行所，⑥発行都市名，⑦訳本発行年号（西暦）の順に記載すること．

(7) 上記文献リストの項目間には，下記の例にしたがってコンマ（，）やコロン（：）を適切に用いること．著者名のイニシャル，誌名の略記にピリオドは用いない．

(8) 文献表示例

〔雑誌の場合〕

1）Ueda K, Nakajima H, Nakagawa T, Shimizu A: The association between hepatitis C virus infection and in vitro activation of the complement system, Ann Clin Biochem, **30**: 565-569,1993.

2）藤波 綾，宮澤 正，小林吉晴，渡邊富久子：固相抽出による尿中ベンツフェタミン代謝物のHPLC測定法の開発，臨床化学，**25**: 243-252, 1996.

〔単行本の場合〕

1）Wallach J: Interpretation of Diagnostic Tests. A Synopsis of Laboratory Medicine, 5th ed, p.82-107, Little Brown and Co., Boston, 1992.

2）市原清志：バイオサイエンスの統計学，378p.，南江堂，東京，1990.

3）Hamasaki N, Shibako M, Ideguchi H, Sugisaki S, Kohsaka T: Serum phosphohexose isomerase (in Quality Control in the Clinical Laboratory '91, eds Kawai T, Ohba Y, Kanno T, Kawano K, Ueda K, Tatsumi E), p. 193-198, Excerpta Medica, Ltd., Tokyo, 1992.

〔翻訳書の場合〕

1）川喜多正夫 訳：分子生物学の基礎（Freifelder D著），p. 61-64，東京化学同人，東京，1989.

〔Webの場合〕

1）日本臨床微生物学会，一般社団法人 日本感染症学会：新型コロナウイルス核酸検査に係わる施設基準ならびに検体輸送・精度管理の方針【提言】．
https://www.jslm.org/committees/COVID-19/20200616.pdf ［2020.10.6］

11.5. 英文表記事項

本文とは別に，英文で①論文表題，②著者名，③研究の行われた機関と所在地，④『Summary』（250語以内），および⑤『Key words』（5〜6語）を日本語に準じて記述したものを添付すること．

12. 図と表

図（概要図，ダイヤグラム，写真を含む）は原稿から直接製版するため，描線の太さ，文字の大きさ，縮尺率などにとくに注意すること．

著者と相談のうえ編集部においてトレースすることがあるが，この場合は実費を請求する．

(1) 図表には「図1」，「表1」などとアラビア数字で番号をつけること．また，それぞれに表題と，本文を併読しなくてもわかる程度の簡単な説明をつけること．材料と方法および他の図表に記述されている実験条件は反復して記載せず，それらを引用すること．

(2) 表題，説明および図表中の語句は本文中と統一すること．

(3) 図の表題および説明は別紙に番号順にまとめること．

(4) 他の著作物より図・写真等を転載する場合は，執筆者の責任において，当該著作物の責任著者および出

版者の許可を得，出典を明記すること．

13. 物理化学量および単位など度量衡などの単位は，SI単位の使用を原則とする（本誌23巻1号「SI単位換算表」を参照）．なお必要に応じて，初出の箇所に，慣用単位を併記することができる．単位や記号の後に「.」は付けない．特に，℃や%の記号の場合には「37℃」や「100%」のように数字との間にスペースは置かないが，「nm」や「mg/L」などの単位の場合には「0.1 nm」，「100 mg/L」のように数字との間に半角1スペースを空ける．

〔SI単位使用上の注意〕

1）接頭語を二重に用いない．μμg（γγ）はpgとする．

2）長さに関する単位

μはμm，mμはnm，Åは0.1 nmまたは100 pmとする．

3）容量に関する単位

L（エル）を用い，dm^3，cc，mm^3などはそれぞれL，mL，μLとする．

4）物質量に関する単位

分子量の明らかな物質はmol表示とする．

5）濃度に関する単位

① 分子量の確定している物質の濃度はmol/L表示とする．図表などで慣用単位としてMを用いる場合は「…の濃度mol/LはMと表記する」のように明示したうえで使用する．

② その他は100 μg/mL，100 mg/dLなどとするが，リットルは大文字の［L］を用いることが望ましい．100 μg/mL → 100 mg/L，100 mg/dL → 1 g/Lまたは1,000 mg/Lとし，原則として分母に接頭語はつけない．ただし，慣用単位は準用してよい．

6）その他の単位

mol/min/Lは，mol/min・L^{-1}またはmol・min^{-1}・L^{-1}とする．

原稿作成に当たっては「L」（エル）と「1」（いち），u（英字）とμ（ギリシア文字）などを明確に区別して用いること．

14. 特別掲載・別刷

14.1. 原著論文の特別掲載

学位論文等で原著論文の至急掲載を希望する場合は，その旨を明記すること．

14.2. 別刷

著者には論文の最終稿PDFファイルを提供する．別刷り（表紙あり）は、100部単位とする．

- 会員30，000円／100部 ，非会員50，000円／100部 （カラーまたはモノクロ）
- 500部以上を希望する場合は,別途事務局へ連絡すること．

15. 原稿の送付方法と送付先

郵送または電子投稿とする．郵送の場合には，原稿1部のほか，必ず査読用のコピー2部（写真は査読コピー用も必ずオリジナルプリント）をつけて，簡易書留またはレターパックで下記あて送付すること．電子投稿の場合には，指定のアドレス宛に送付する．この場合，インターネット特有のリスクに注意すること．改訂を条件に掲載可とされた論文の再投稿に際しては，変更箇所を清書し，審査意見とそれに対する回答を添付すること．

〔送付先〕

〒104-0033 東京都中央区新川一丁目28番23号東京ダイヤビルディング5号館9階

（株）エム・シー・アイ内 一般社団法人日本臨床化学会事務局

TEL 03-6367-6225 FAX 03-6367-6235 E-MAIL jscc@mc-i.co.jp

なお，原稿は原則として著者に返却しない．

16. その他

日本臨床化学会は，英国臨床化学会およびオランダ臨床化学会と提携してAnnals of Clinical Biochemistry誌を共同編集しており，同誌を日本臨床化学会の英文機関誌としている．英語論文は同誌へ直接に電子投稿すれば，迅速に審査を受けることができる．

Annals of Clinical Biochemistry のホームページ：http://journals.sagepub.com/home/acb